


**2025
VOL 4**

利晶学園大阪立命館 SSH Newsletter

SSH
Super Science High school

Test STEM

本校ではSSH(スーパーサイエンスハイスクール)事業の一環として、外部の企業の方々などと協力を仰ぎ、生徒達に社会で活躍する様々なことをTaste(味わって)もらえるような取り組みを行っています。

女性研究者との交流

9月11日、高校1年の全クラスを対象に、「女性研究者・開発・技術者・女子大学生との対話ワーク」を行いました。
このプロジェクトは、国内で不足しているとされている女子生徒の理数系技術・開発・研究分野への興味・関心の涵養と、それに伴う人材を育成する目的と共に、男女共に、大学理工系学部進学者の増加と、理系や職業に対するジェンダーバイアス解消への視点・意識を育む事を目的として去年から行われているプロジェクトとなります。

今回ご協力頂き来てもらったのは、「大阪公立大学」「奈良女子大学」「立命館大学」「森ノ宮医療大学」「大阪大学」「京都大学複合原子力科学研究所」「コスモエネルギーホールディングス株式会社」から幅広く集まってもらい、大学の事や、自身の研究の話など、生徒達と対話をする形で、学ぶ機会を設けました、中には自身の進路の相談や、研究の内容に自身の考えを述べる生徒の姿もあり、理系分野への興味を持つこともですが、改めて自身の進路について考える機会になったようでありました。



3年生研究発表会

3年生は1年生の頃から総合探究で学んできたことの集大成として、グループ事に発表するコンペが校内で行われました。

1年生では堺の事、2年生では世界の問題に触れてきたきた3年生は、この堺にある学校から「SDGs」を切り口に世界の課題解決について自身達がか考えた事を発表していききました。

またこの発表は、自分が解決したいと思った SDGs の目標を1つに絞り、その目標を達成するために自分ができることについて英語で発表し、生徒達の英語力の向上にも繋がりました。

コンペで勝ち残った上位のグループは、2月にフェニーチェ堺で行われる予定の研究発表会で発表予定になります。

オーストラリア海外研修

西オーストラリアの大学および高等学校と連携し、国際共同研究を実施しました。去年に引き続き2年目となるプログラムで、今回は西オーストラリア大学(The University of Western Australia;UWA)および、オーシャンリーフ高校(Ocean Reef Senior High School)との協働を中心に構成され、生徒達は現地の大学生や高校生とともに、環境・エネルギー・サステナビリティなどをテーマにした探究活動に取り組みました。

生徒達は、実際にパースの地に赴く前にも、何度もミーティングを重ね、試行錯誤しながら研究テーマを深めたり、日常で使える英語のフレーズをリングノートに纏めたり、課題研究の英語プレゼン練習にも熱心に取り組む姿が見られ、出発前から事前準備に大忙しではありましたが、その分様々な場所で現地の方々と積極的に交流し、科学的な視点や国際感覚をしっかりと身につけて来てくれたかと思います。

UMAでは、大学生や大学院生の指導のもと、最新のSTEM分野に関する講義や実験、ディスカッションが行われた。

中でも、エネルギー効率や再生可能エネルギー技術に関するワークショップでは、生徒達は英語による専門的な解説を理解しながら、自らの研究テーマと関連づけて考察を深めた。

Ocean Reef Senior High Schoolでは、現地の生徒と混合グループを編成し、課題解決型のSTEM授業を通じて協働的な学びを実践した。生徒は英語で意見交換を重ねながら、異なる文化的背景や思考の違いを理解し、多様性を尊重しつつチームとして成果をまとめて上げる経験を積み、現地の教員からも本校生徒の積極的な姿勢と探究心の高さが高く評価されました。

今回のプログラムを通じて生徒達は「科学を通じた国際協働」というSSHの理念を体現し、課題発見力・論理的思考力・発信力を総合的に高める事が出来たかと思います。現地での体験が単なる短期研修にとどまらず、生徒1人ひとりの今後の学校生活や将来の学びにつながることを期待しています。

また今後は本プログラムで得た成果やネットワークを活かし、UWAおよびOcean Reef Senior High Schoolとの共同研究を継続的に発展させるとともに、教育省をはじめとする西オーストラリア州との連携を強化し、国際的な科学教育の推進に努めていきたい。

